

11 三鷹市山本有三記念館

作家・山本有三が1936年から1946年にかけて家族と暮らした洋風建築。大正末期のモダンな趣を残す館内で、代表作「路傍の石」が執筆された。現在は直筆原稿などの展示のほか、朗読会も開催。南側に広がる公園では、四季折々の草花が訪れる人を楽しませてくれる。



10 玉鹿石 (太宰治入水の地)

1948年に玉川上水へ入水した太宰治を偲び、没後48年にあたる1996年に建立された。石碑には太宰の故郷・青森県五所川原市特産の「玉鹿石」が選ばれた。かつて「人喰い川」と恐れられるほど水量が多く急流だった当時の玉川上水の面影を、静かに伝えている。



コース距離: 8.4km
歩行時間: 3時間

- 1 花小金井駅 1.5km
- 2 陣屋橋 0.5km
- 3 浴恩館 (小金井市文化財センター) 2.5km
- 4 東京都水道局 境浄水場 0.7km
- 5 大橋 0.6km
- 6 野鳥の森公園 1.2km
- 7 三鷹八幡大神社 0.05km
- 8 禅林寺 0.5km
- 9 太宰治の記念碑 0.4km
- 10 玉鹿石 (太宰治入水の地) 0.3km
- 11 三鷹市山本有三記念館 0.1km
- 12 井の頭恩賜公園



12 井の頭恩賜公園

1917年に開園した日本で最初の恩賜公園。浮世絵師・歌川広重の「名所江戸百景」に描かれた井の頭池や木々たちの息吹が感じられる雑木林、三鷹の森ジブリ美術館など見どころがいっぱい。

1 花小金井駅

桜の名所として知られる小平市花小金井にある西武鉄道新宿線の花小金井駅。1927年の開業から歩みを重ね、来年2027年には記念すべき100周年の節目を迎える。



2 陣屋橋

江戸時代前期、武蔵の新田開発に伴い、幕府の陣屋(役宅)が置かれた。小金井村に通じる道は「陣屋道」、玉川上水にかかる橋は「陣屋橋」と名付けられた。



快汗!

ウォーキングコース



玉川上水をめぐる旅③

花小金井駅～井の頭恩賜公園 編

3 浴恩館 (小金井市文化財センター)

京都御所で行われた昭和天皇即位の礼「大嘗祭」の神職更衣室を移築。1931年より青年団の講習所「浴恩館」として活用された。当時、所長を務めていたのは教育者で小説家の下村湖人。名作「次郎物語」はこの地で構想・執筆された。現在は市内の考古資料や古文書などを展示する郷土資料館となっている。



4 東京都水道局 境浄水場

1924年に開設された歴史ある浄水施設。多摩川水系の貯水池から自然流下で届く水を、緩速濾過方式という砂の層に通す自然に近い方法で処理している。この方式の浄水場としては日本最大規模を誇る。



5 大橋

玉川上水に架かる100以上の橋の中で、1654年の開削当初、武蔵野市域に設けられた「最初の3つの橋」のひとつ。修復を重ね今に至るが、親柱には1932年当時の造形がそのまま残されており、歴史の重みを今に伝えている。

6 野鳥の森公園

玉川上水沿いに広がる、緑豊かな憩いの場。アカマツや、どんぐりが実るコナラ、クヌギの木々が立ち並び、野鳥たちが羽を休める。木漏れ日が差し込む園内には、オナガやシジュウカラ、ツグミ、ウグイスなどのさまざまな鳴き声が響き渡る。



▼オナガ



7 三鷹八幡大神社

江戸の大半を焼き尽くした「明暦の大火」の後、住居を失った人々の移住先として開拓されたこの地に、1664年に村の氏神として創建された。所有する「二之宮神輿」は非常に豪華なことで知られ、頂に飾られた鳳凰の両目には計3カラットの天然ダイヤ、頭部の鶏冠にはルビー、尾羽根にはヒスイがまばゆい輝きを放っている。



9 太宰治の記念碑

晩年を三鷹で過ごし、「走れメロス」や「人間失格」といった不朽の名作を遺した太宰治。本の形を模したレリーフには、同じく三鷹で執筆された「斜陽」の一節が刻まれている。親交があった文芸評論家・亀井勝一郎による解説文も添えられ、文豪の足跡を辿ることができる。



8 禅林寺

三鷹八幡大神社に隣接する黄檗宗の寺院。境内には、日本を代表する文豪・森鷗外と、彼を深く敬愛していた太宰治の墓が、斜めに向き合うように建てられている。それぞれの忌月である6月の「桜桃忌(太宰治)」と7月の「鷗外忌(森鷗外)」には法要が営まれ、今なお両氏を偲ぶ多くのファンが全国から足を運んでいる。

